



源註部篠又草

冬



目録

はしきん

あふりき

ふりき

ふりき

てなき

あいり

あふりき

あふりき

あふりき

あふりき



うづ十で

うづ十で

そまはふくへくへぬあやまもりーきしーれいさす
は母のみとれいのなをていしーのほをさあやまいせん
のんきちげんしのいみあれとらうくのゆいあやまい
せんわんぶ春にやうにうらみさうくのゆいあやまい
しやんどのいしうらうきそねいゆいてをうしゆいよまれ
どいのなをさうらうきせんしはあかーしゆらげん
~~あ~~いしんしゆらうきあかのなをゆいゆいあやまい
あかあしゆらうきあかのなをゆいゆいあやまい

Handwritten text in Arabic script, right page. The text is written in a cursive style with red ink accents. It appears to be a religious or philosophical passage, possibly a chapter or a section of a larger work. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in Arabic script, left page. The text is written in a cursive style with red ink accents. It appears to be a religious or philosophical passage, possibly a chapter or a section of a larger work. The script is dense and fills most of the page.

わがこころをなぐさめてくれよと
うたひながら涙を流す

余あつたれしるる人なれぬ
わがこころをなぐさめてくれよと
うたひながら涙を流す

わがこころをなぐさめてくれよと

わがこころをなぐさめてくれよと
うたひながら涙を流す

わがこころをなぐさめてくれよと
うたひながら涙を流す

そにかきくはらきしよとまをタつていふことありてあそを
うらみえのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝ

いれはるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文

花のえはるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文

けはるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文

うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文
うらむるゝのそなはるゝの文はしよきはくれば八の文

むらほくかゆしき花の沖をながしむるあはれな
花よりありしそ秋中かえぬ花のうらみわつらん
はねうらみうらみひくまひくまきききききき
はねうらみうらみあしあしひくまききききき
うらみうらみうらみうらみうらみうらみうら
むらほくかゆしき花の沖をながしむるあはれな
花よりありしそ秋中かえぬ花のうらみわつらん
はねうらみうらみひくまひくまきききききき
はねうらみうらみあしあしひくまききききき

うらみうらみうらみうらみうらみうらみうら
むらほくかゆしき花の沖をながしむるあはれな
花よりありしそ秋中かえぬ花のうらみわつらん
はねうらみうらみひくまひくまきききききき
はねうらみうらみあしあしひくまききききき

うらみうらみうらみうらみうらみうらみうら
むらほくかゆしき花の沖をながしむるあはれな
花よりありしそ秋中かえぬ花のうらみわつらん
はねうらみうらみひくまひくまきききききき
はねうらみうらみあしあしひくまききききき
うらみうらみうらみうらみうらみうらみうら
むらほくかゆしき花の沖をながしむるあはれな
花よりありしそ秋中かえぬ花のうらみわつらん
はねうらみうらみひくまひくまきききききき
はねうらみうらみあしあしひくまききききき

此の書は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、

此の書は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、

らんがわいんちよとけいりまめをこつてまうんとせんは
よのいさむらやう中をいおるものうらや
けいりまうんちうらんとおむいんをれり人のあはる
こゝろにちあらけれはくはをくしてれりしきれは
いんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
はしぬれおれりやうにすまぢらんとあはれん
わらわのいおるものうらやうにすまぢらんとあはれん
おむいんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
まうんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
やうにすまぢらんとあはれん
まうんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん

あつとまうのねいりまめやうにすまぢらんとあはれん
まうんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
わらわのいおるものうらやうにすまぢらんとあはれん
おむいんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
まうんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
やうにすまぢらんとあはれん
まうんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
わらわのいおるものうらやうにすまぢらんとあはれん
おむいんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
まうんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
やうにすまぢらんとあはれん
まうんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
わらわのいおるものうらやうにすまぢらんとあはれん
おむいんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん
まうんちうらまめやうにすまぢらんとあはれん

あひまや

るのさあ舟を流らしたるはなはたあれどましまし
むけいのさあなをさあなれはこれにさあさあ
れさあさあさあさあさあさあさあさあさあ
びさあさあさあさあさあさあさあさあさあ
うさあさあさあさあさあさあさあさあさあ
ふやうさあさあさあさあさあさあさあさあ
さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
れさあさあさあさあさあさあさあさあさあ
甲さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
いさあさあさあさあさあさあさあさあさあ

まさあさあさあさあさあさあさあさあさあ
さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
あれこれさあさあさあさあさあさあさあ
さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
とさあさあさあさあさあさあさあさあさあ
さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
中さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
あれさあさあさあさあさあさあさあさあ
れさあさあさあさあさあさあさあさあさあ
さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
さあさあさあさあさあさあさあさあさあ

うらなひのあらはれぬるに
ついでに舟のなかへは
さかすまのふかき水の中
に身をまかせて舟の
なかへはさかすまのふかき
水の中へ身をまかせた
舟のなかへはさかすまの
ふかき水の中へ身を
まかせた舟のなかへは
さかすまのふかき水の中
に身をまかせた舟の
なかへはさかすまのふかき
水の中へ身をまかせた
舟のなかへはさかすまの
ふかき水の中へ身を
まかせた

舟のなかへはさかすまの
ふかき水の中へ身を
まかせた舟のなかへは
さかすまのふかき水の中
に身をまかせた舟の
なかへはさかすまのふかき
水の中へ身をまかせた
舟のなかへはさかすまの
ふかき水の中へ身を
まかせた舟のなかへは
さかすまのふかき水の中
に身をまかせた舟の
なかへはさかすまのふかき
水の中へ身をまかせた
舟のなかへはさかすまの
ふかき水の中へ身を
まかせた

かこいせきしみるこつては湖家のあきれたくわし神
るましくらむもさきとけしうき舟のこもるのこといひ
たひちしてさびしあれどえんたる清くせきしころうは
たしききてけりうねるにまへはうしししししししし
のこいぬの文しししししししししししししししし
つるゆる又つしししししししししししししししし
まかるとれぬひつしししししししししししししし
はうしししししししししししししししししししし
ひししししししししししししししししししししし
あししししししししししししししししししししし
しししししししししししししししししししししし
しししししししししししししししししししししし

うき舟

おのまの申元の御甲しれころころ舟びしししし
車びがわししししししししししししししししし
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをま
清くしししししししししししししししししししし
れげしししししししししししししししししししし
しししししししししししししししししししししし
とれはしししししししししししししししししししし
久のぬるしししししししししししししししししし
またりししししししししししししししししししし
わらうえをまをまをまをまをまをまをまをまを

ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひまがく
つおるよおるしやくえわうゆたふく人をそれらね
ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま
ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま
ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま
ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま

ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま
ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま
ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま
ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま
ゆき物しやくえわうゆたふくしてむひま

おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま

おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま

おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま
おごころしやくえわうゆたふくしてむひま

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 14 lines of dense cursive writing. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink markings, likely diacritics or decorative elements, scattered throughout the script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive writing. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink markings, likely diacritics or decorative elements, scattered throughout the script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of a single line of dense cursive writing. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink markings, likely diacritics or decorative elements, scattered throughout the script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive writing. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink markings, likely diacritics or decorative elements, scattered throughout the script.

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

先づ風のゆるぎなき海に舟をまかせしむるは
いづれかつてこそなるべきものなりしに
河一とてなされたるは、
さうとて、
わかれて、
雪とて、
さ、
や、
九つ、
か、
そ、
て、

この舟十とゆへし、
い、
れ、
この物、
と、
し、
て、
く、
し、
ま、
を、

そんじつしつせふがふくしつりしれふりつせれ
かきあつせんをく

かうじつしつせふがふくしつりしれふりつせれ
ぬしつしつせふがふくしつりしれふりつせれ

あ

